

1
2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4

第十四号

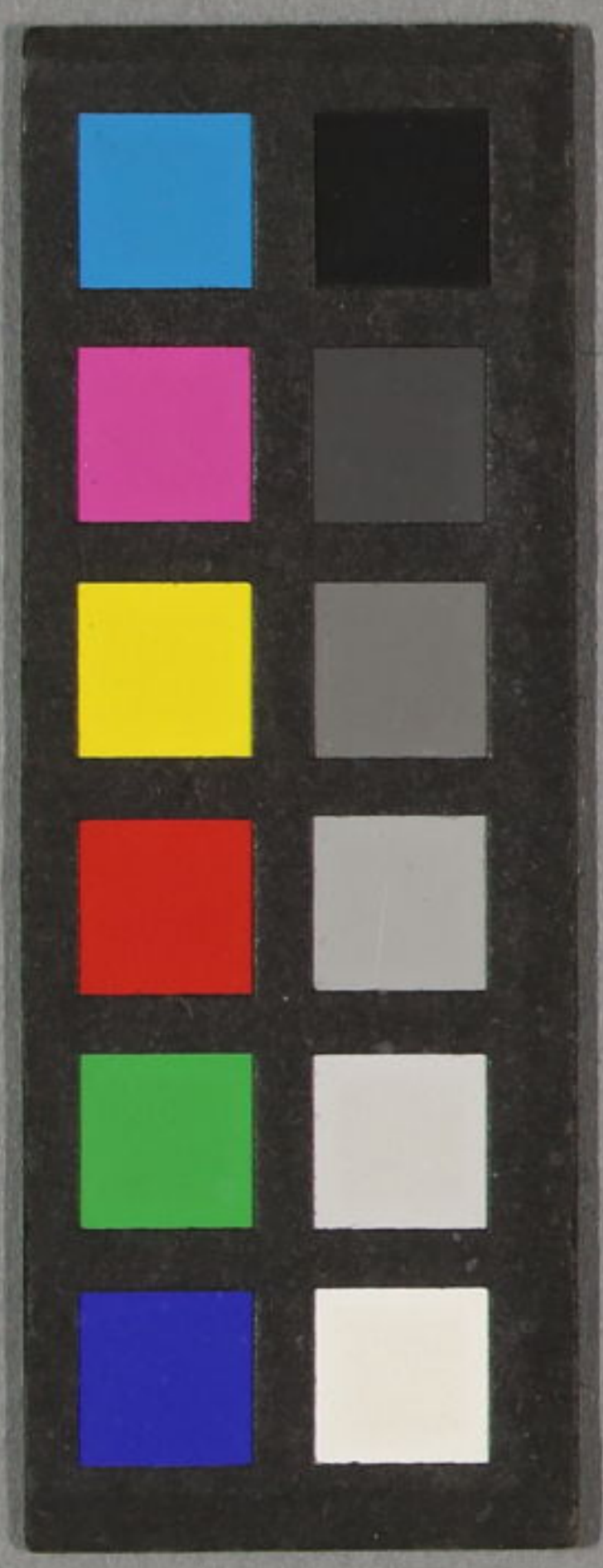
甲寅春
新刊

万亭應賀作



外題

~ 13
3749
14



3749
和
巻

應賀作

因貞画



大和み屋

街
歩き

釋迦八相倭文庫二拾七編序

夫悉達太子出山の朝風破衲を飄々積雪敗鞞を埋然燈の
記と受て獨去して釈迦と號せ初七思惟一畢て雅音頻如の
比唯根軌の如く為ふまふ小似て華嚴四阿の先影響音與龍耳
交余の龍蛇を雜也奈苑の弊垢を衣て珎脚の舍那を
隱之と正書見えり奈苑とは鹿野苑也されば茲に六度
集をひきて鹿王の戒を著し又仁王經の須陀摩王と班
足王の不妄語戒を堅立太子と尼狗陀天子の草拏擬て聊佛
心の法味を蒔とまうを

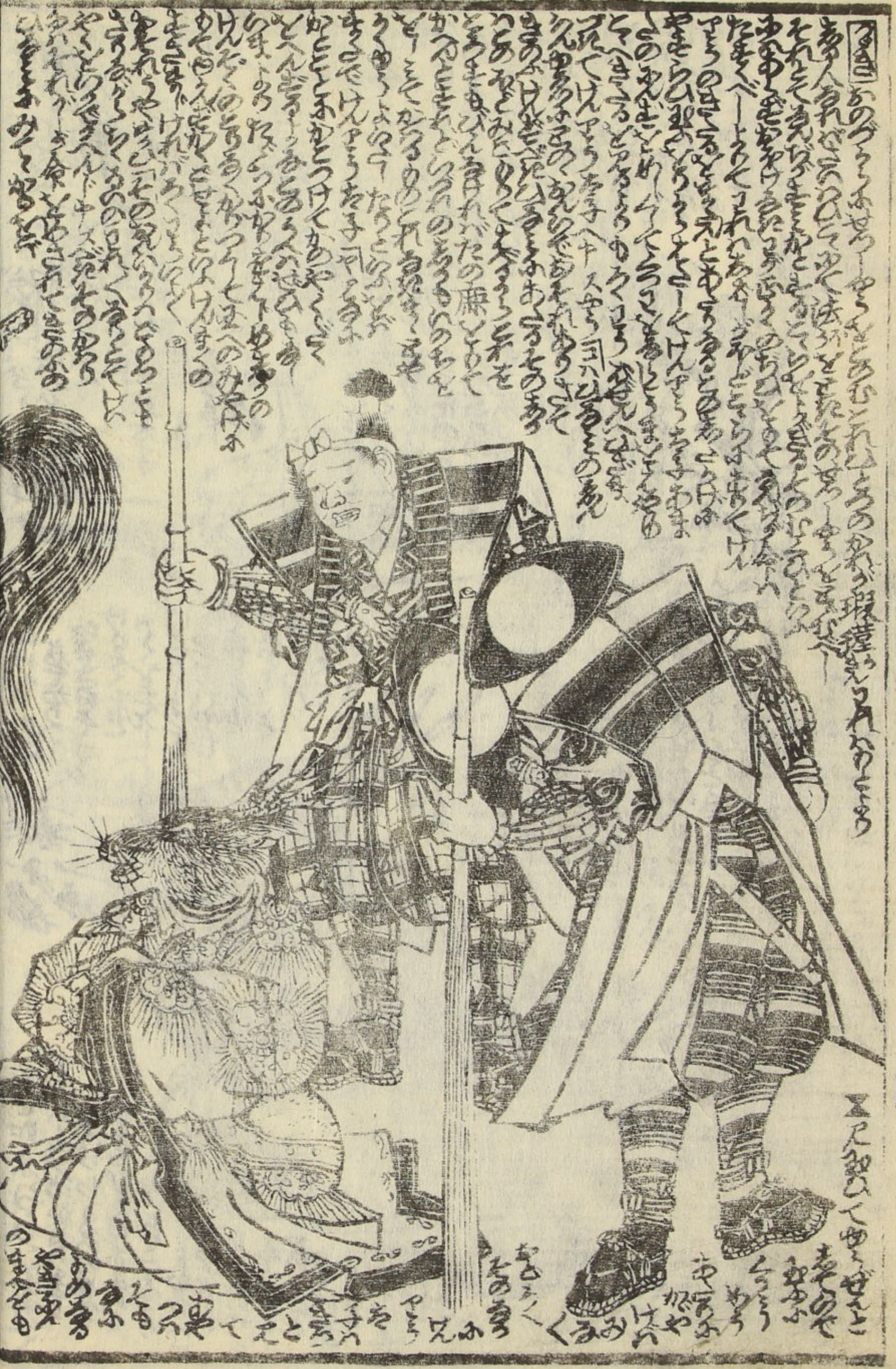
嘉永七甲寅年
孟春吉辰開市

万亭應賀識

一

倭文庫七七





このころは... 御光廟九... 御光廟九... 御光廟九...

御光廟九... 御光廟九... 御光廟九... 御光廟九...



御光廟九... 御光廟九... 御光廟九... 御光廟九...

御光廟九... 御光廟九... 御光廟九... 御光廟九...



徳文庫世

徳文庫世

徳文庫世

徳文庫世

徳文庫世

徳文庫世

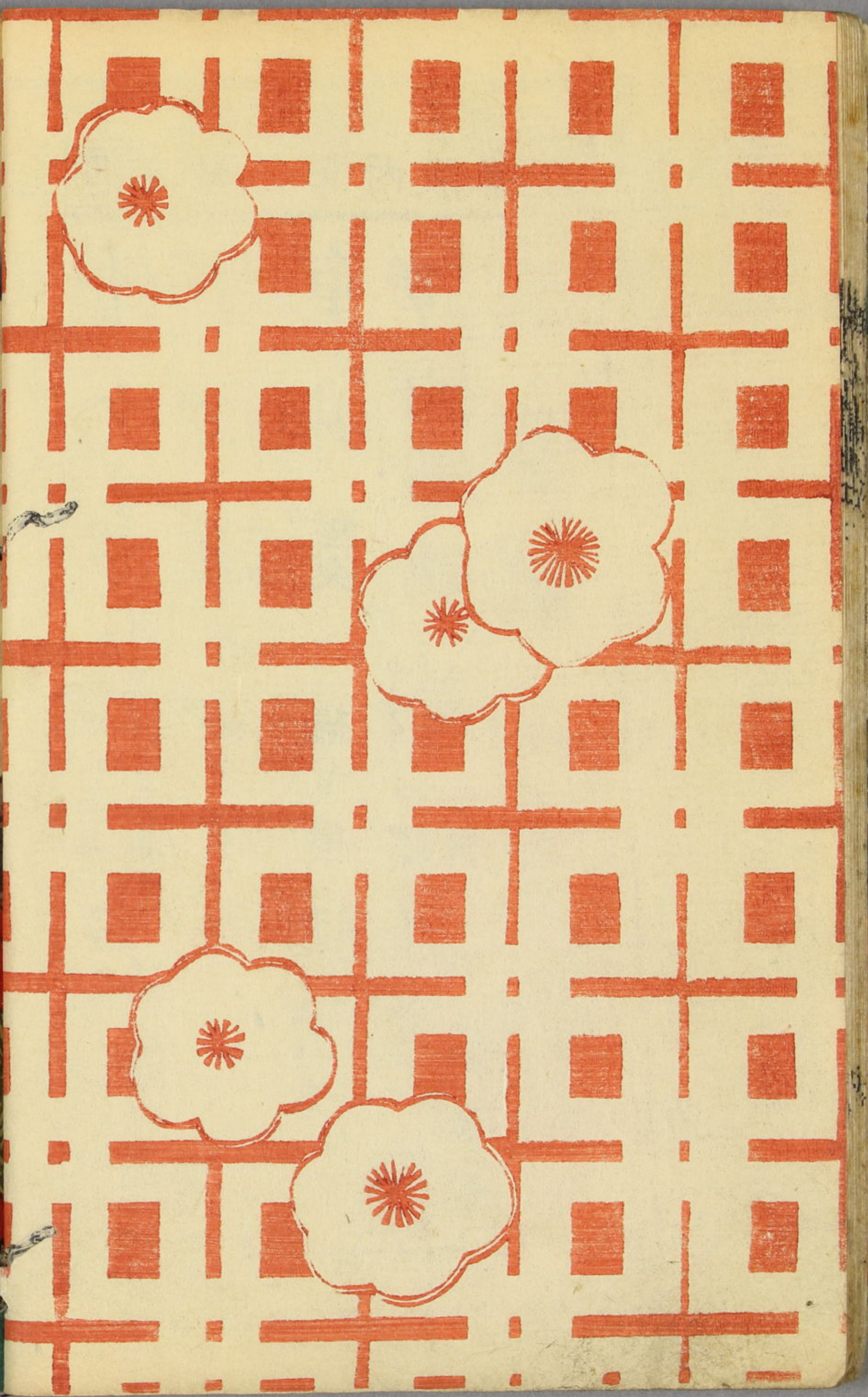
二
世歌川國貞画

錦重堂版



下

倭文庫二拾七編





あまの

文七

毎か貝也

周貝也

鳥の

行



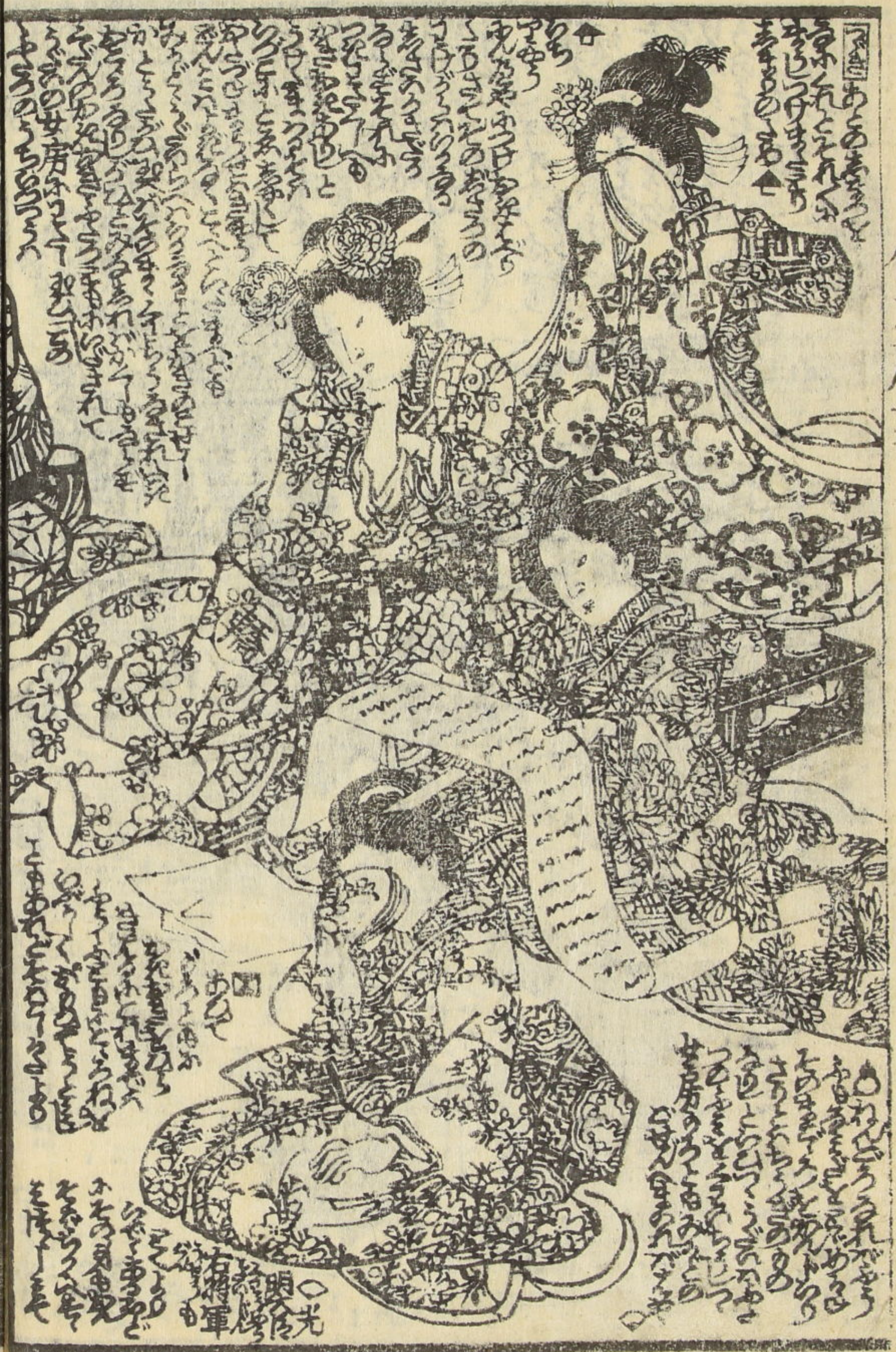
Handwritten Japanese text in the upper left quadrant, likely providing commentary or a narrative for the scene.

Handwritten Japanese text in the lower left quadrant, continuing the commentary or narrative.



Handwritten Japanese text in the upper right quadrant, likely providing commentary or a narrative for the scene.

Handwritten Japanese text in the lower right quadrant, continuing the commentary or narrative.



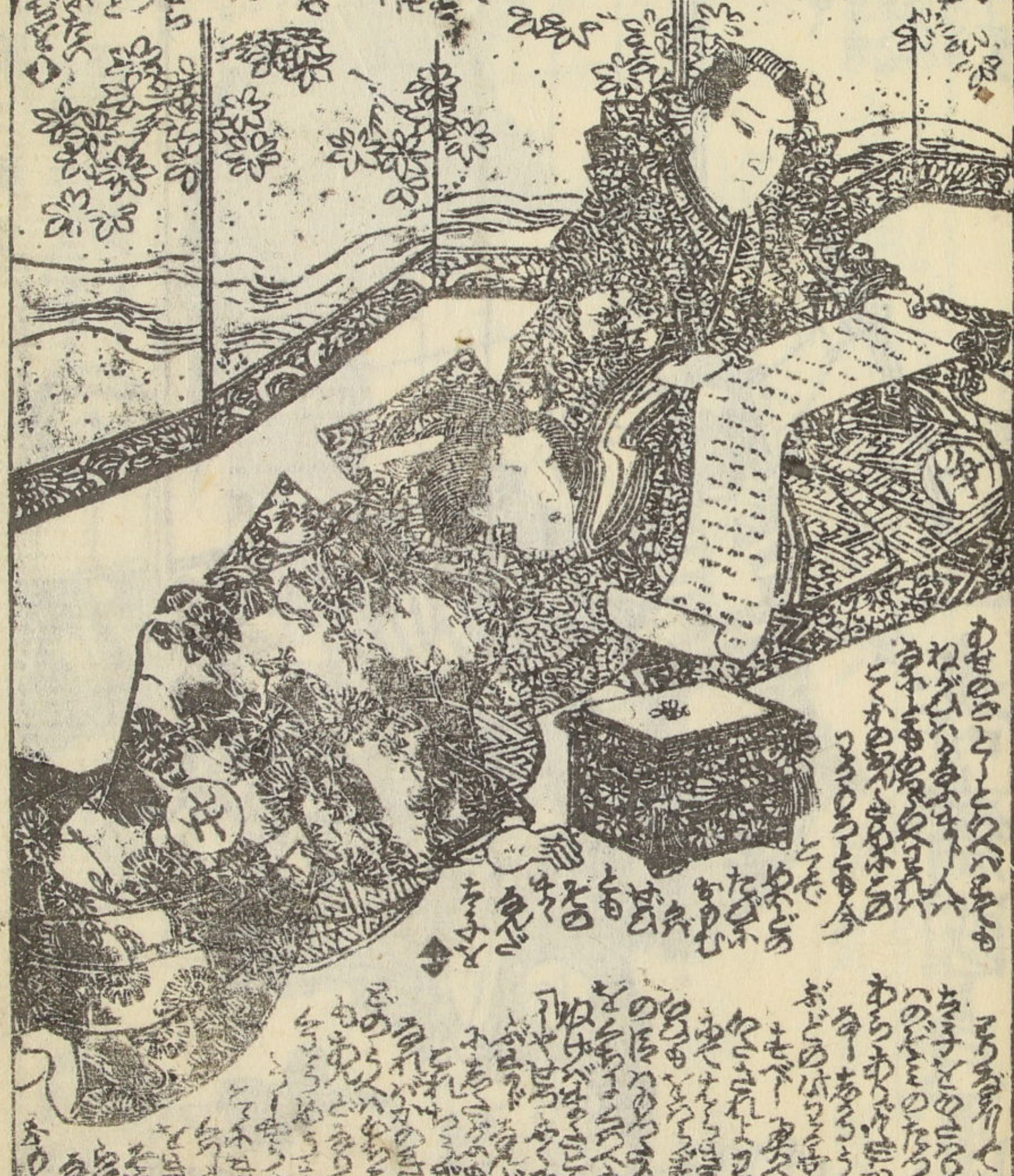
Vertical text columns on the right page, likely describing the scene or the objects depicted in the illustration.



Vertical text columns on the left page, likely describing the scene or the objects depicted in the illustration.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription, surrounding the illustration on the right page.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription, surrounding the illustration on the left page.



万亭應賀作



一壽齋國貞画

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六
 万亭應賀作
 一陽齋豊國画

春の将棋双六
 同
 川貞房画

男女役替双六
 同
 陽齋豊國画

大寶御江戸圖
 極上摺 奉書六枚半續
 陽齋豊國画

清元稽古本
 初編 二編 出版
 陽齋豊國画

常磐津懷中本
 初編 二編 四編
 陽齋豊國画

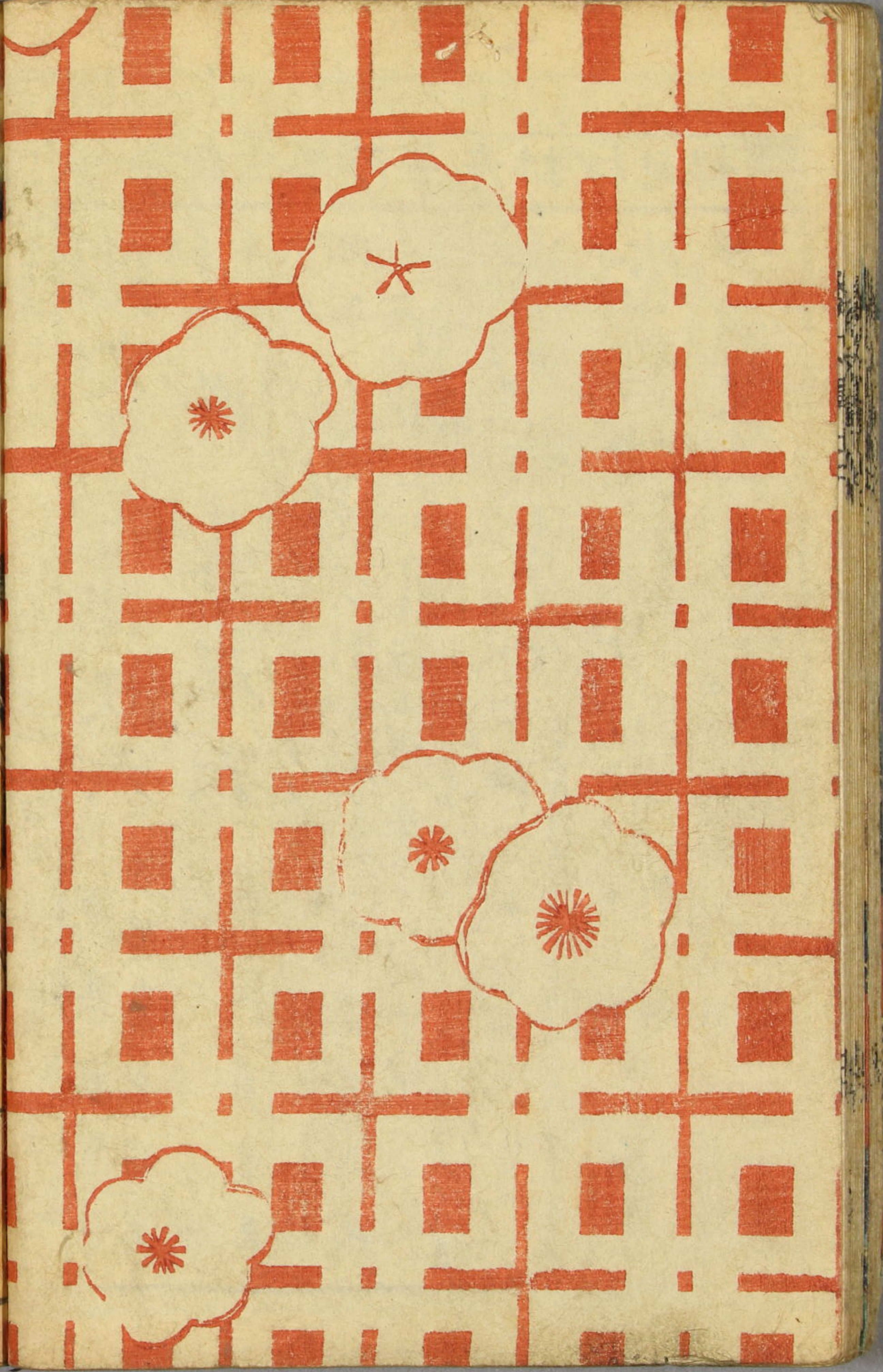
極上摺 擬百人一首
 陽齋豊國画



万亭應賀作

外題四五因魚

上

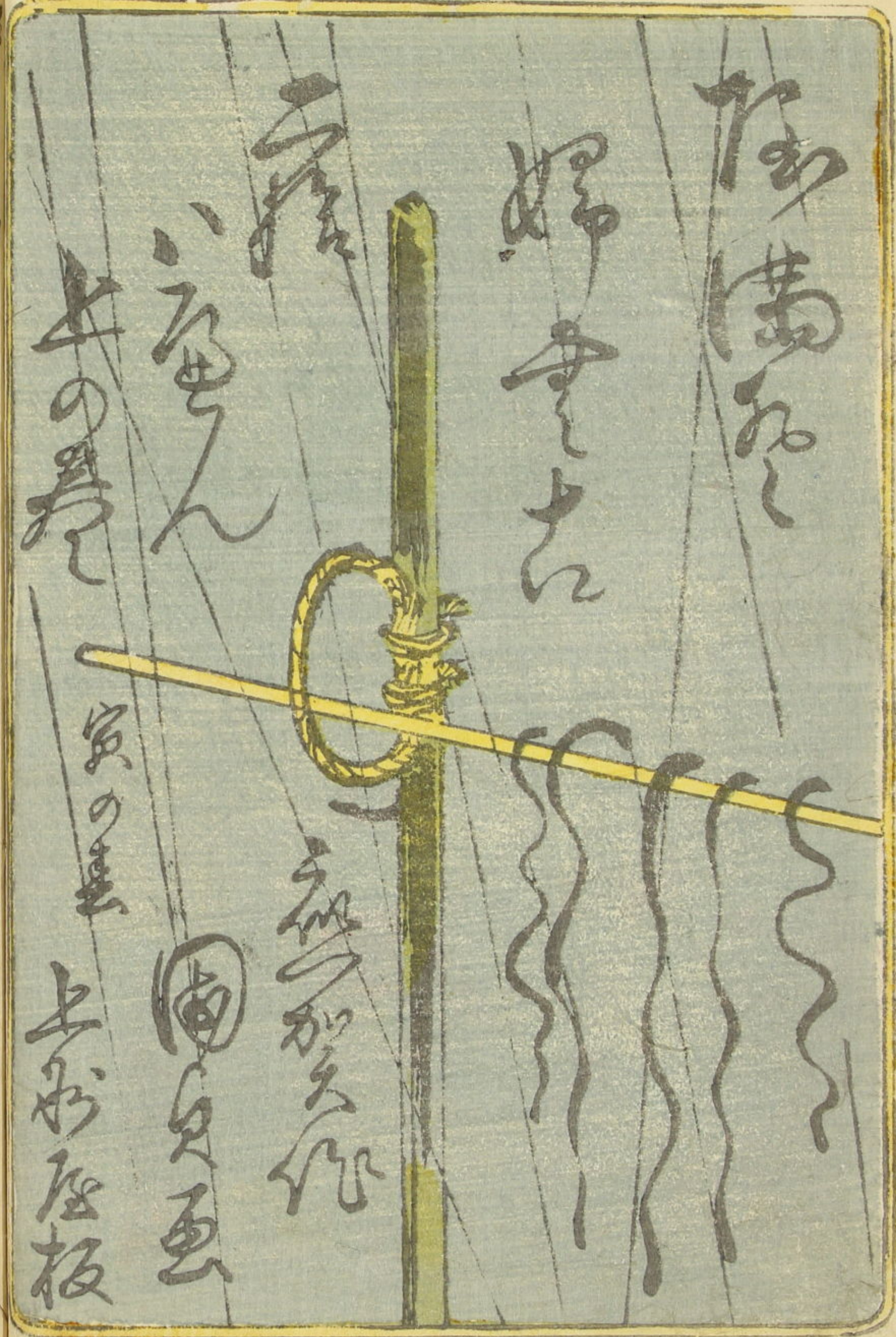




釋迦八相倭文庫二拾八編叙
 夫妄語の五戒の一也第一慎むべしと云ふされども又廣大なる世の
 寶ともいふべしや什麼世尊出山ありて直に二更唯一心の道理を説
 一切衆生を度せんが為先華嚴と説きと聲聞縁覺を啞聾の如く所
 化の根未熟れは余も方便に花を咲せし後法華の實を説かれ復
 武士道不謀計あり是は嘘とて敵を討て國を治又商人不掛
 直り此も虚言とて渡世に妻子を養ひ家を存況画工の繪嘘稗説家
 の不断の虚言も或は活計或は勸善懲惡の一端なりと云ふは妄語も善
 ふよれば真言不勝る徳ありきと云ふ方便と述ると亦也

嘉永七甲寅年正月吉日 万亭應賀誌

本居宣長



阿満ぬし

好むよし

痛

いふん

本の巻

真の巻

本居宣長

阿満ぬし

好むよし



安陸

安陸酒壺と碎て
五戒を示さ

悟惱るが故に大神通かき
りて檀施と勧る

如長
若

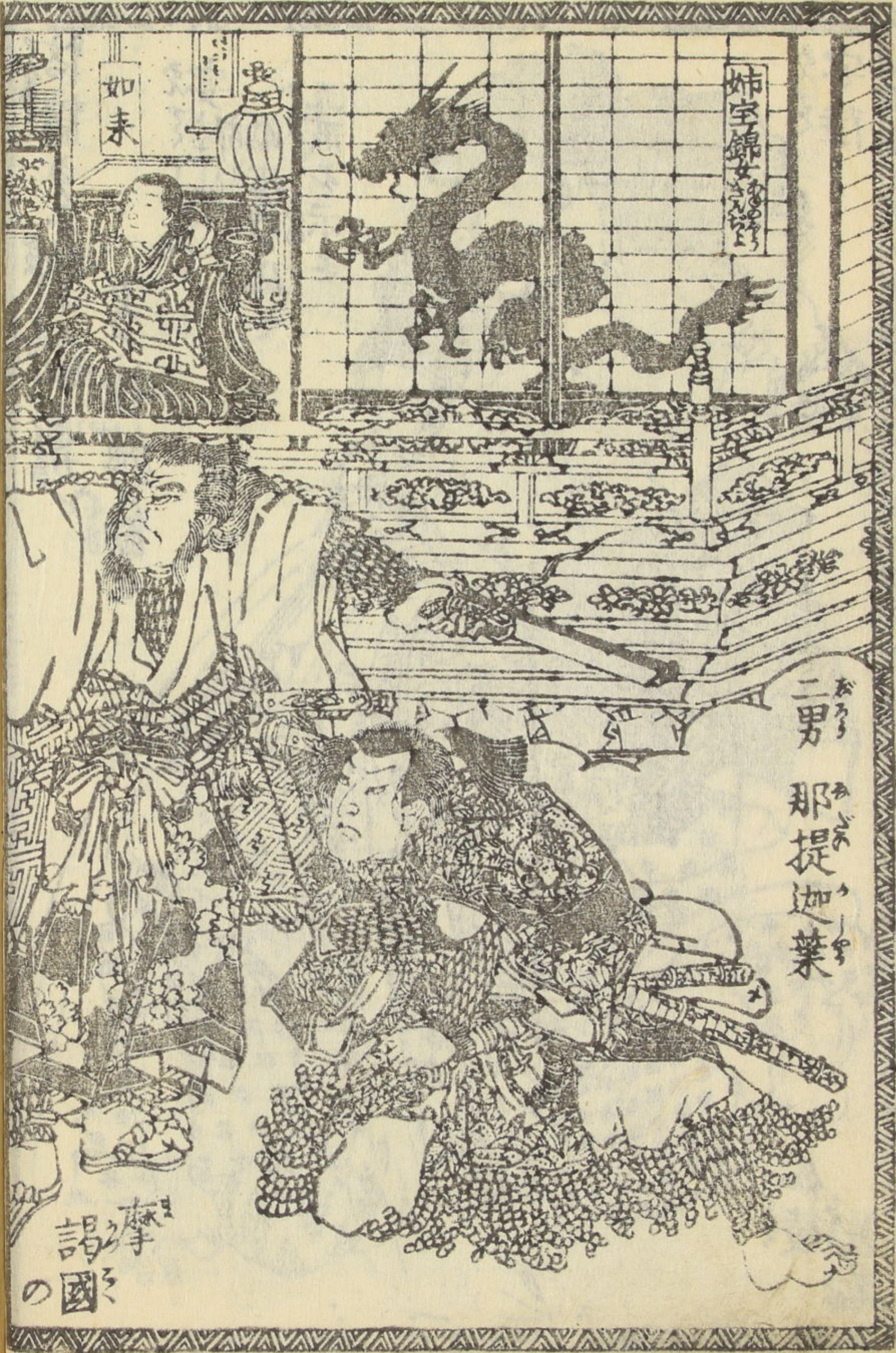


目蓮

目蓮弟の伽陵長者

長者の妻

作之屋ナリ



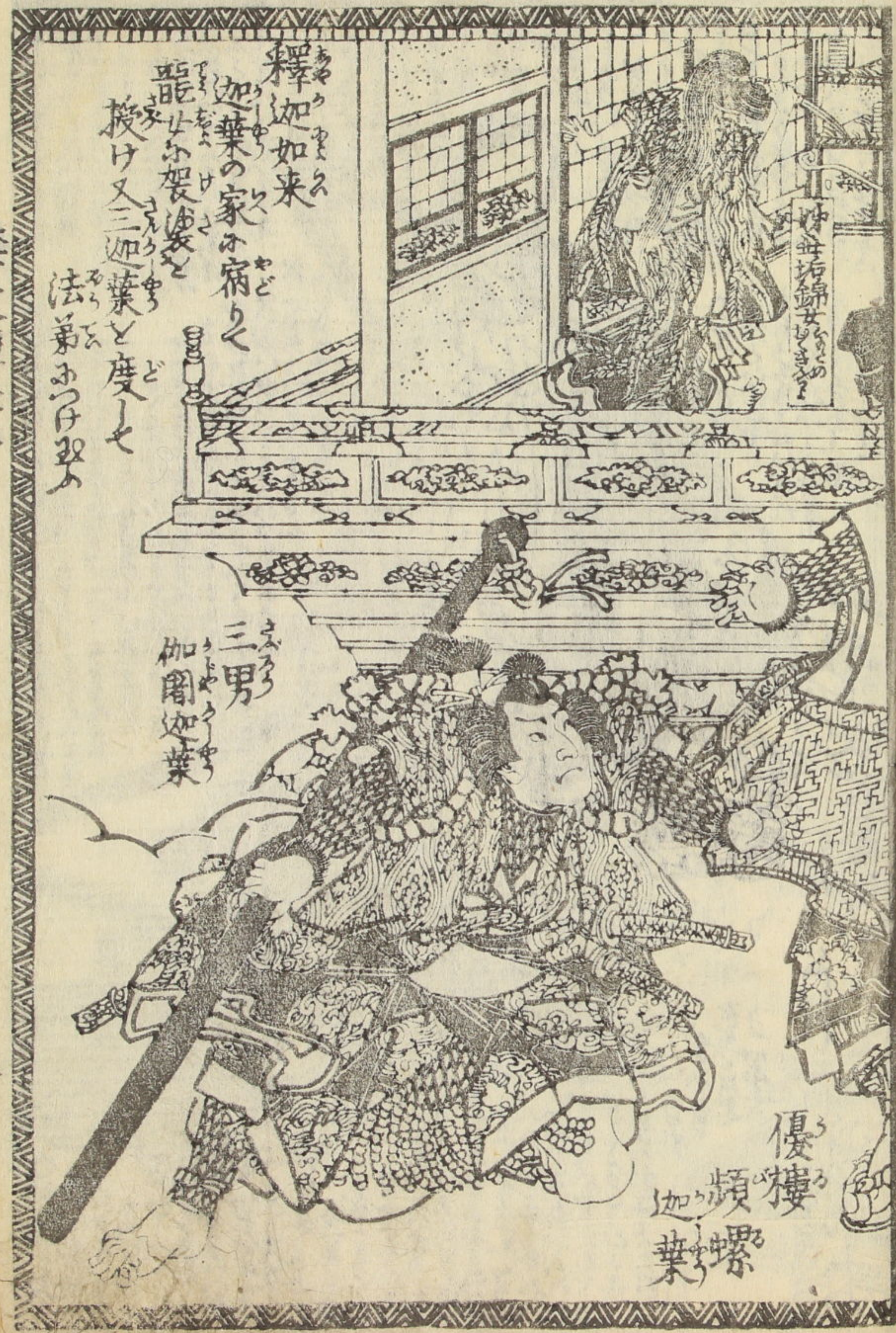
如未

姉宝錦女

姉宝錦女

二男 那提迦葉

諷摩の國



釋迦如来

迦葉の家

龍

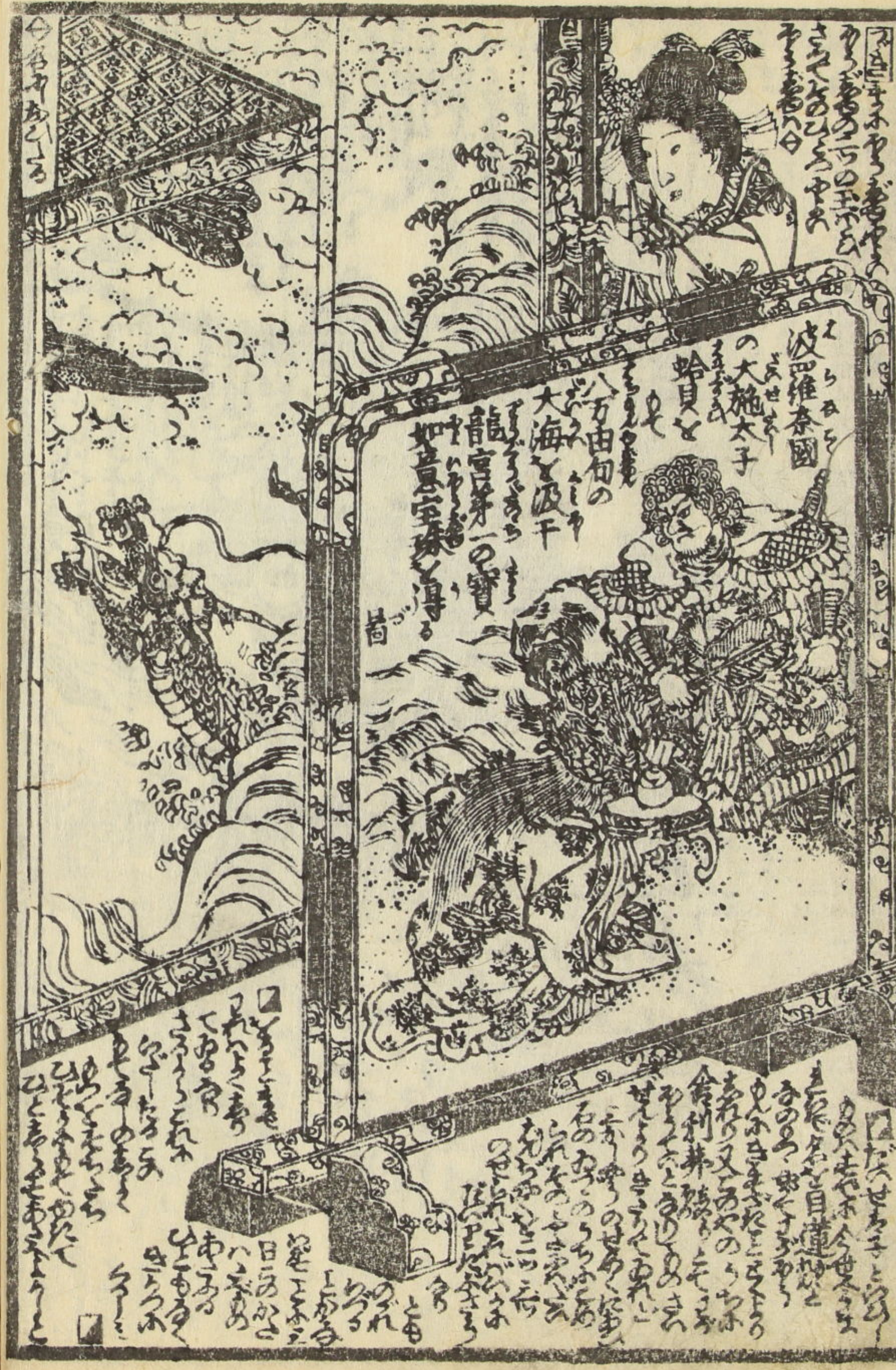
法弟

三男 加闍迦葉

優樓頻螺



海文庫九八



波羅奈國の大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子

波羅奈國の大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子

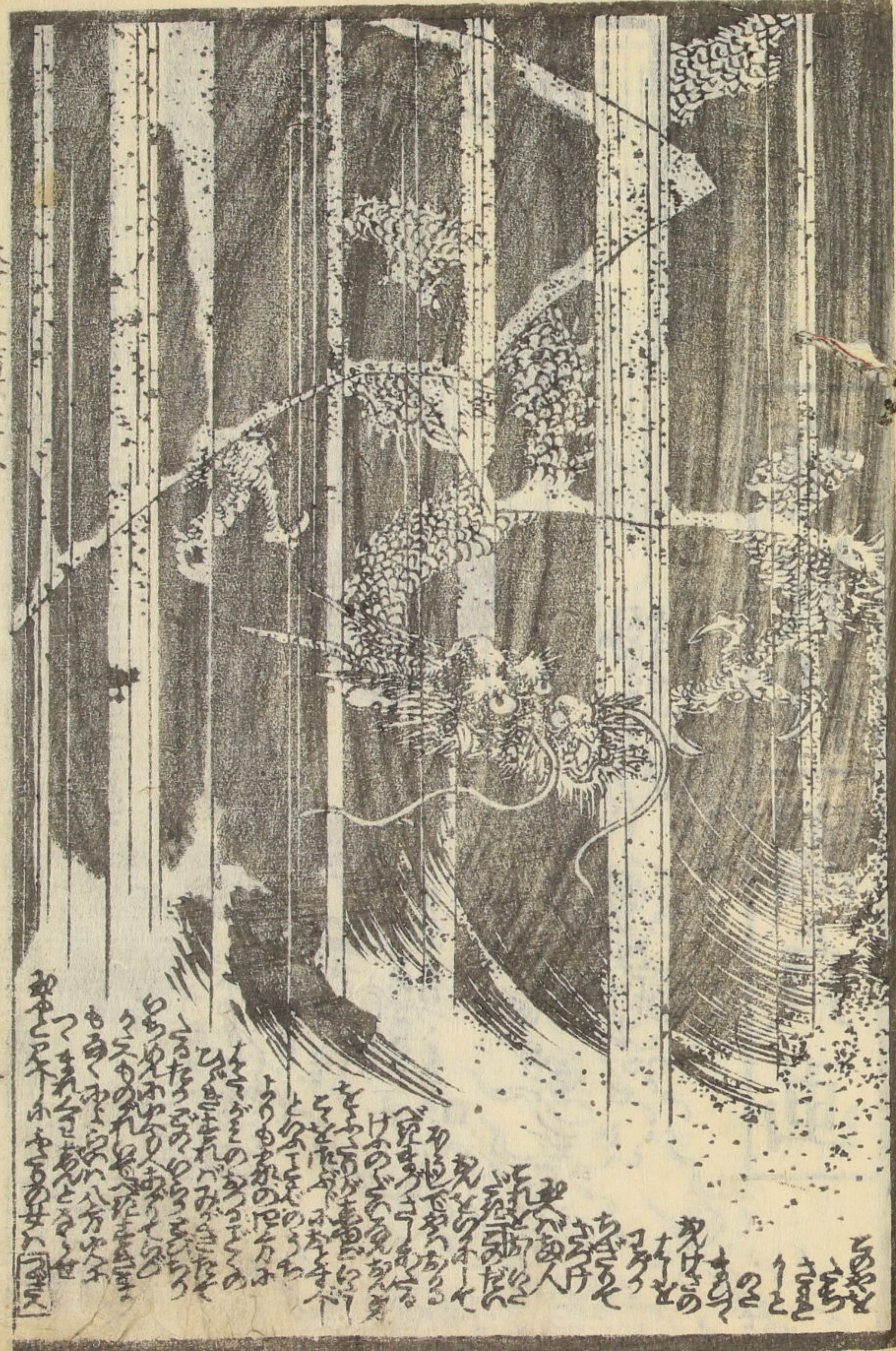
波羅奈國の大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子
 大蛇太子



金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵

金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵

金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵
 金翅鳥の軍兵



龍の身は雲を穿ちて
 雷の光を吐き出し
 海を激しく揺るがす
 龍の首は高く揚げて
 天を睥睨する
 龍の尾は長く垂れ下り
 波を捲き上げる
 龍の目は鋭く
 遠くを見つめる
 龍の鬚は長く垂れ下り
 風を切る
 龍の爪は鋭く
 波を掴む
 龍の鱗は光を反射し
 闇を照らす
 龍の息は火を吐き出し
 雲を燃やす
 龍の力は大変強く
 天を破る
 龍の威は高く
 人々を驚かす
 龍の姿は美しく
 人々を魅了する
 龍の心は優しく
 人々を救う
 龍の徳は高く
 人々を導く
 龍の功は偉大で
 人々を助ける
 龍の業は清く
 人々を浄める
 龍の行は正しく
 人々を教える
 龍の道は正しく
 人々を導く
 龍の徳は高く
 人々を導く
 龍の功は偉大で
 人々を助ける
 龍の業は清く
 人々を浄める
 龍の行は正しく
 人々を教える
 龍の道は正しく
 人々を導く



五月五日の午
 龍の身は雲を穿ちて
 雷の光を吐き出し
 海を激しく揺るがす
 龍の首は高く揚げて
 天を睥睨する
 龍の尾は長く垂れ下り
 波を捲き上げる
 龍の目は鋭く
 遠くを見つめる
 龍の鬚は長く垂れ下り
 風を切る
 龍の爪は鋭く
 波を掴む
 龍の鱗は光を反射し
 闇を照らす
 龍の息は火を吐き出し
 雲を燃やす
 龍の力は大変強く
 天を破る
 龍の威は高く
 人々を驚かす
 龍の姿は美しく
 人々を魅了する
 龍の心は優しく
 人々を救う
 龍の徳は高く
 人々を導く
 龍の功は偉大で
 人々を助ける
 龍の業は清く
 人々を浄める
 龍の行は正しく
 人々を教える
 龍の道は正しく
 人々を導く

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫	赤松譚	重井菱	譚柄瑠璃	茶番案文	神代石	會本類錦繪
三十四編 三十五編 三十六編 三十七編	九編 十編	六編 七編	四編 五編	全冊	三編 四編	一冊
萬亭 應賀作	如淵 外史作	為永 春水作	西澤 一鳳作	萬亭 應賀作	陽齋 豊國作	陽齋 豊國作
陽齋 豊國作						上州屋重藏

應賀作 國貞画



備文庫

倭文庫二拾八編

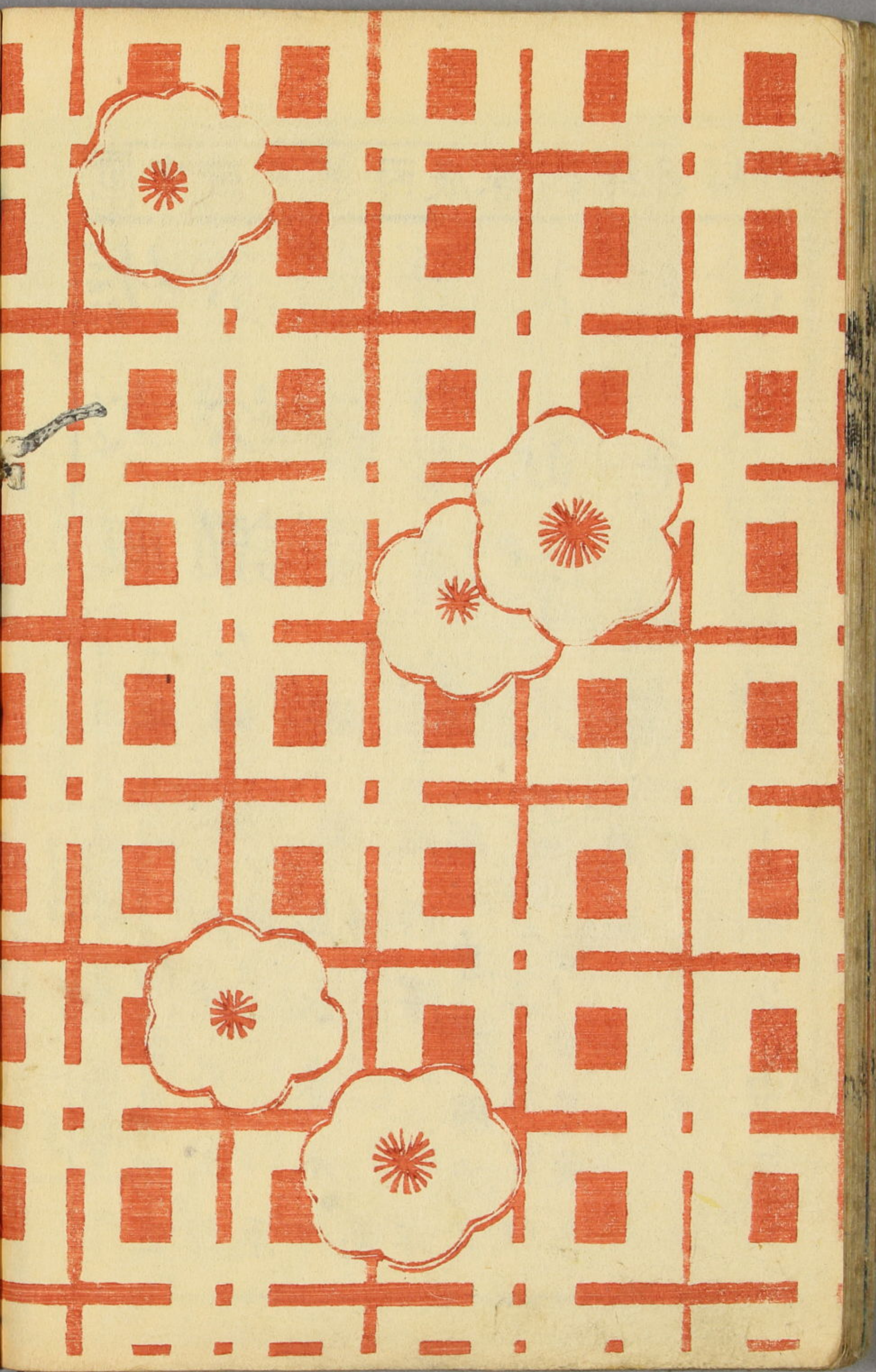
嘉永七年
甲寅春
新版

二世歌川國貞画



下

錦重堂版





漢之陣

二指之痛

下は其

意賀作

國貞画

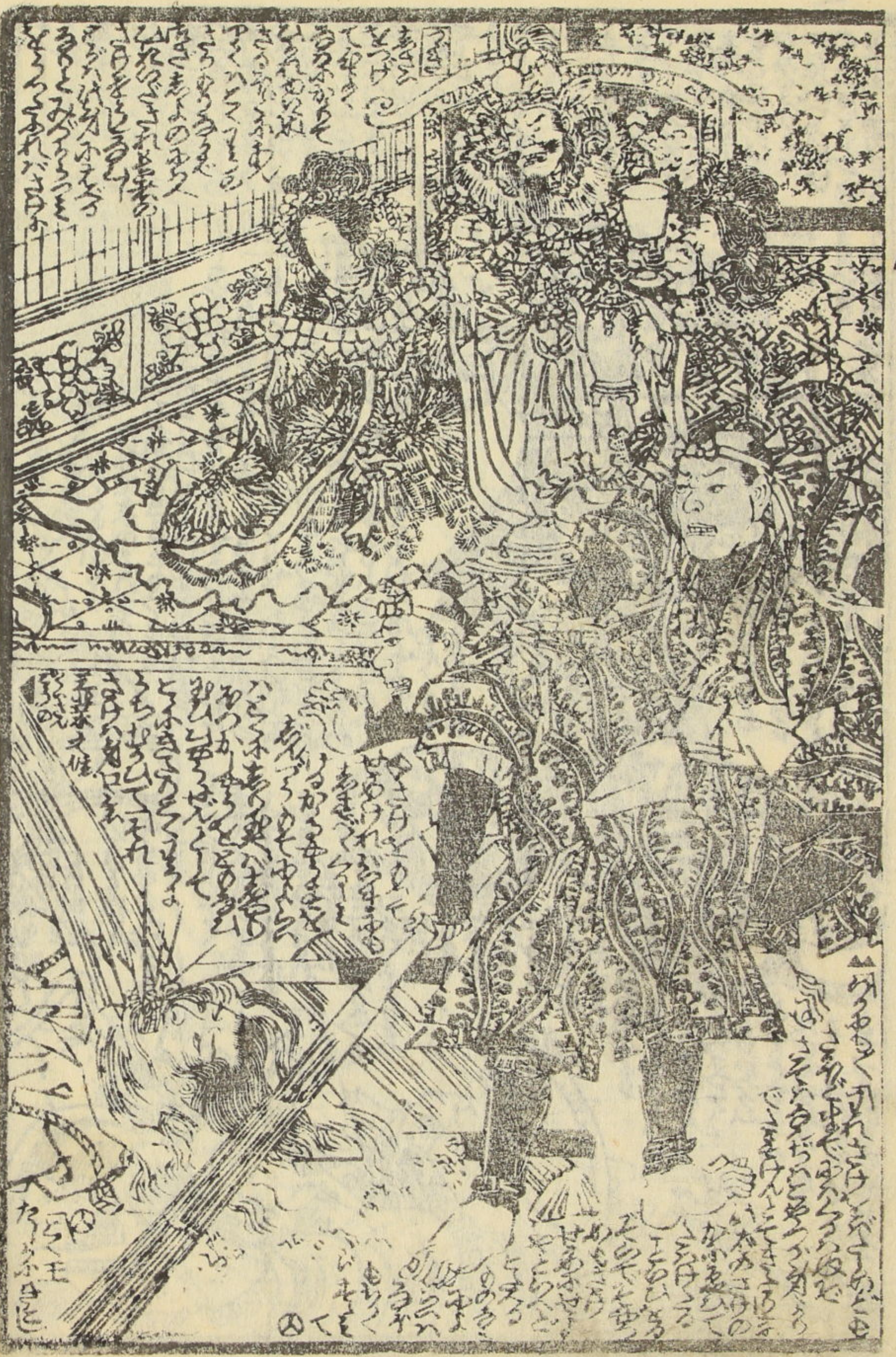
甲寅

一月

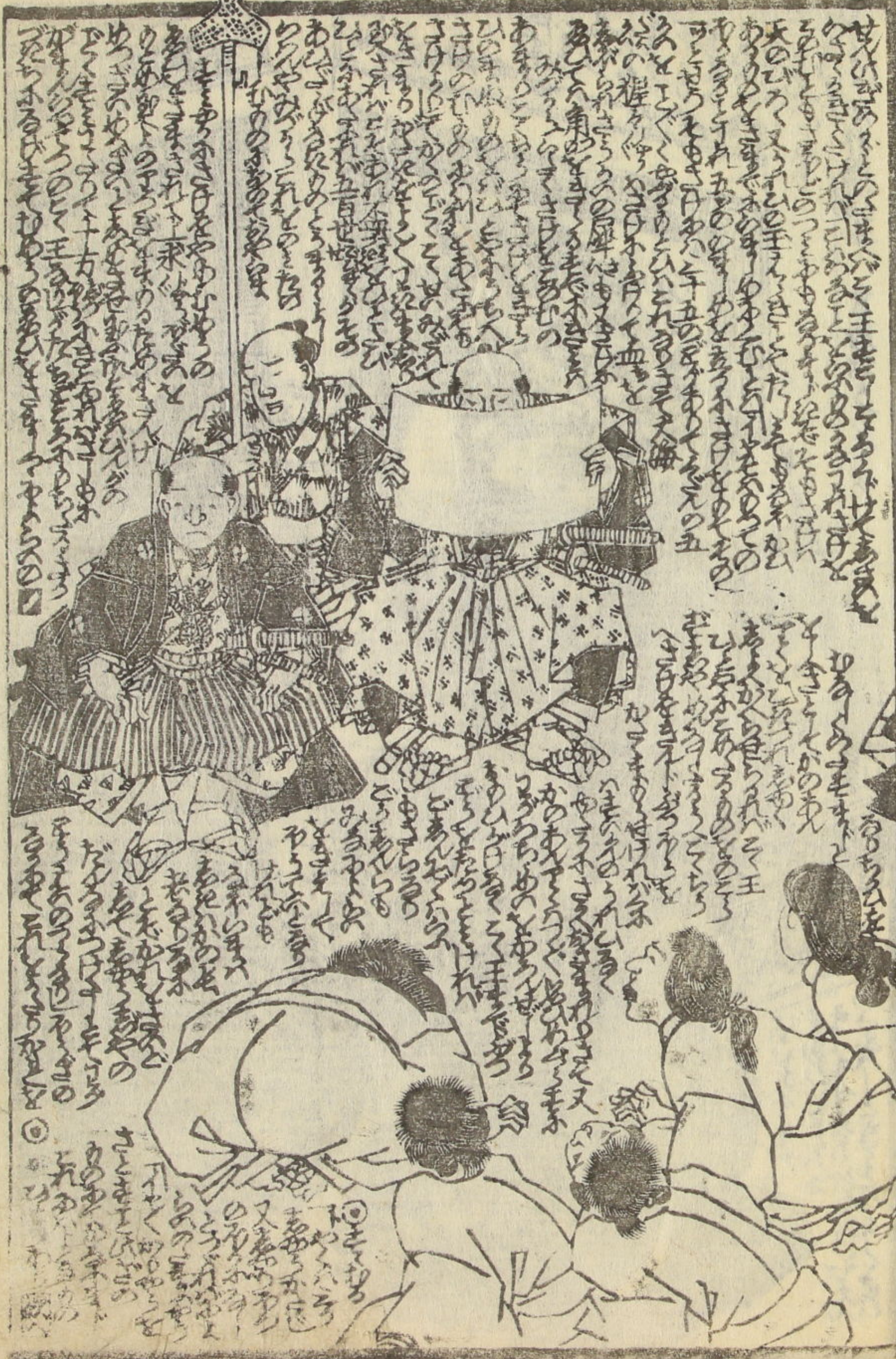
漢之陣







徳文庫ナリ



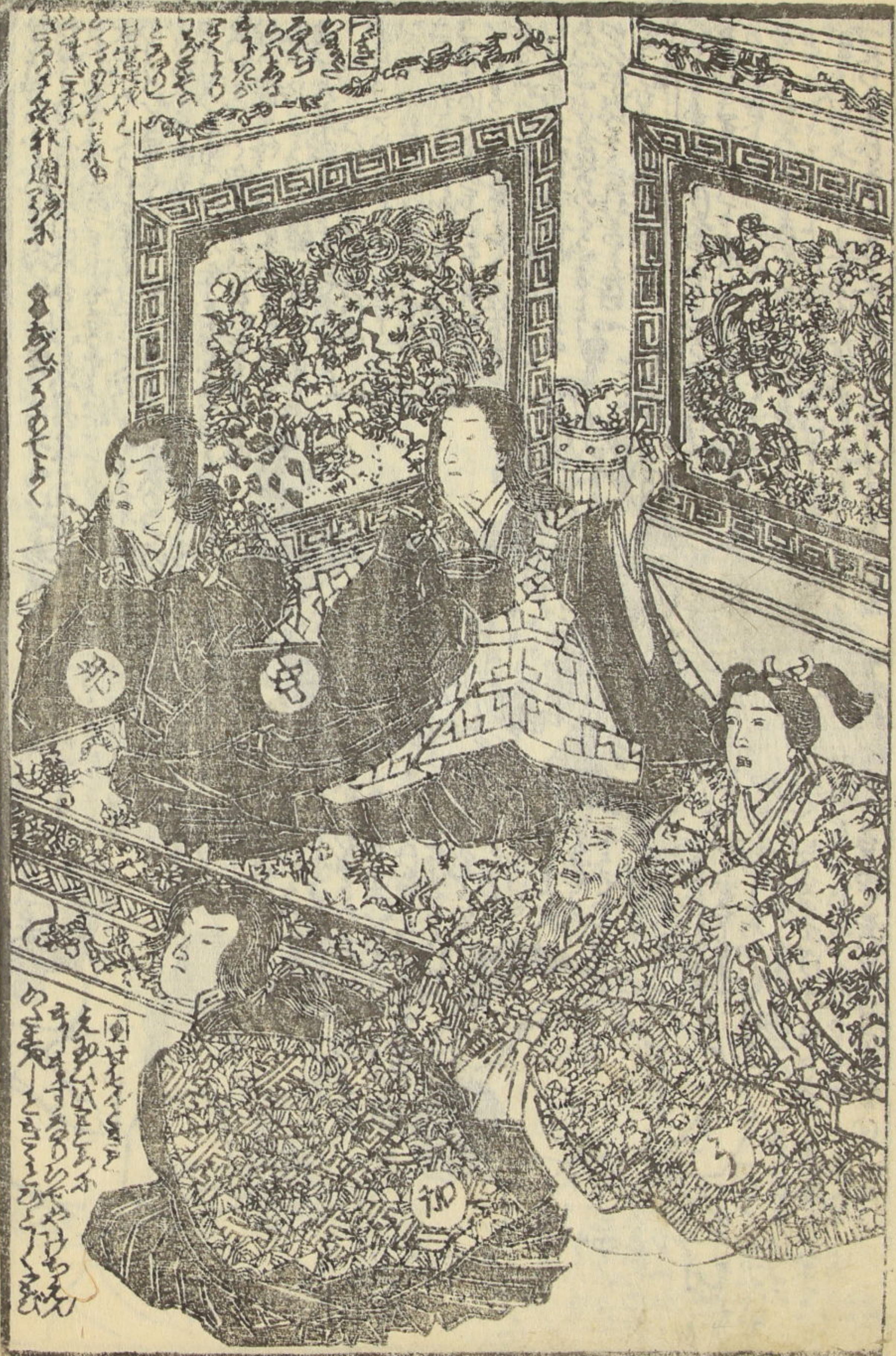
水戸七重七



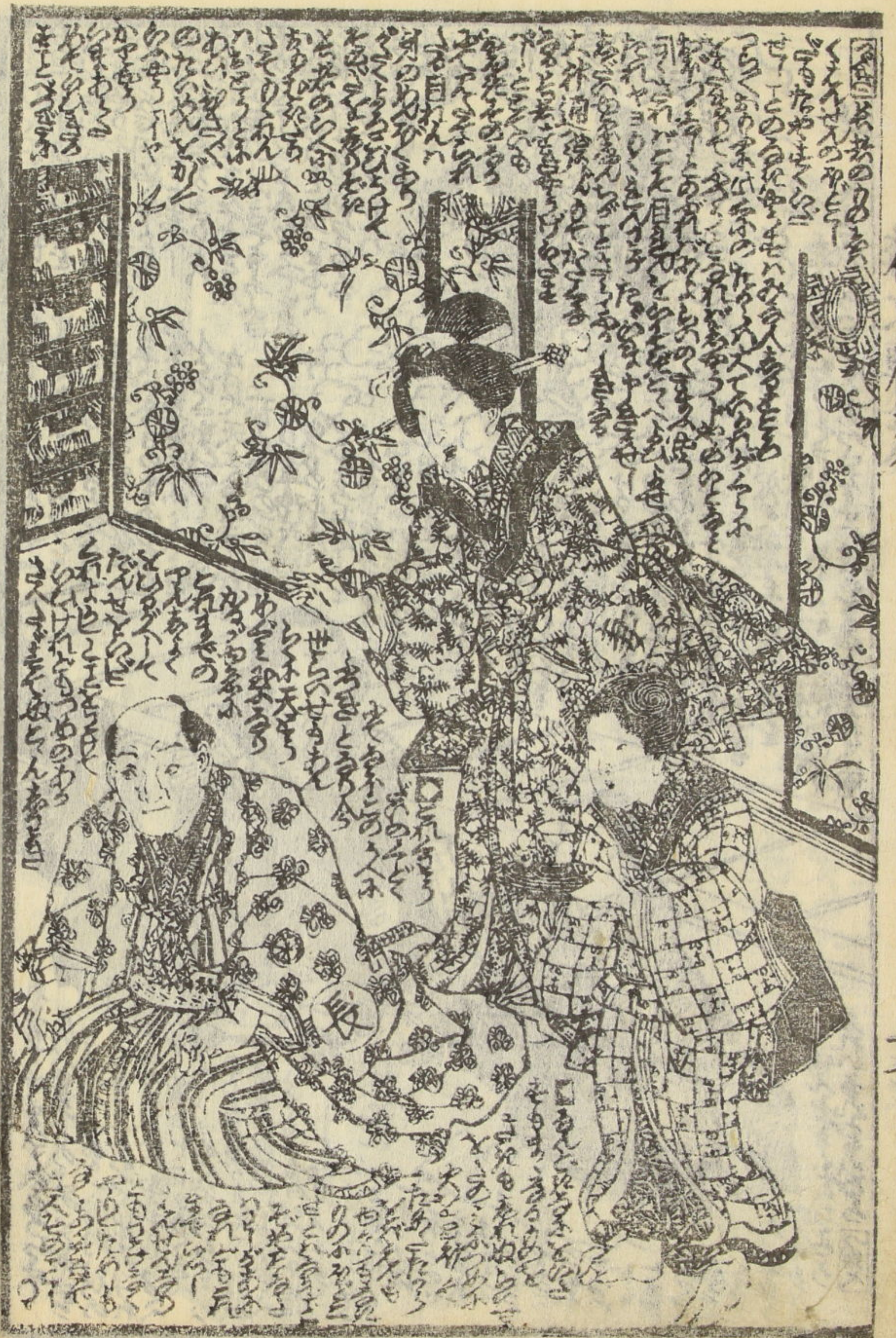
水戸七重七



水戸文庫七



水戸文庫七



五丁のくちやうは...
 上は...
 下は...
 長者...
 長者...



木下大車七



木下大車七

万亭應賀作の歌川國貞画



安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫出世双六 万亭應賀作
一陽齋豊國画

春の将碁双六 同
歌川貞房作

男女役替双六 同
一陽齋豊國画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續
初編 二編 出版

清元稽古本 初編 二編 出版

常磐津懷中本 初編 二編 出版

極上摺 擬百人一首 一陽齋豊國合
廣東筆

